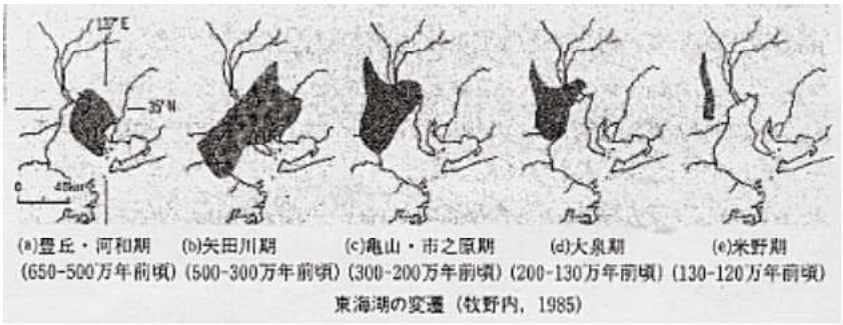
資料　東海湖の変遷と鈴鹿山脈・養老山地・濃尾平野の誕生

「愛知県の自然　講師　山田正浩先生」/「岐阜大学教育学部サイ」トより

1　東海湖の変遷

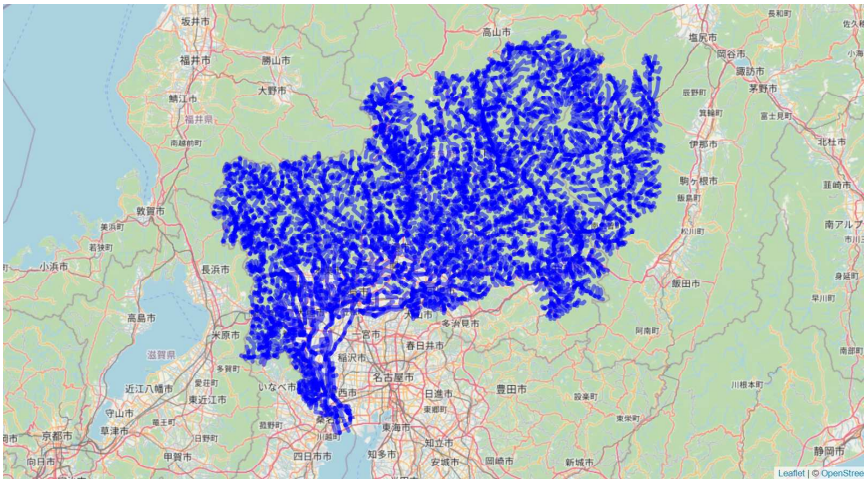
今から650万年から500万年前にはすでに東海湖が存在しており、500万年から300万年前あたりに東海湖の範囲が一番広がっていた。やがて東海湖の東側が高くなっていき、東海湖は西に追いやられていく形で小さくなっていった。130万年から120万年ぐらい前、東海湖の西側で養老山地が隆起しており、東海湖は行き場がなくなり消滅した。



東海湖の変遷

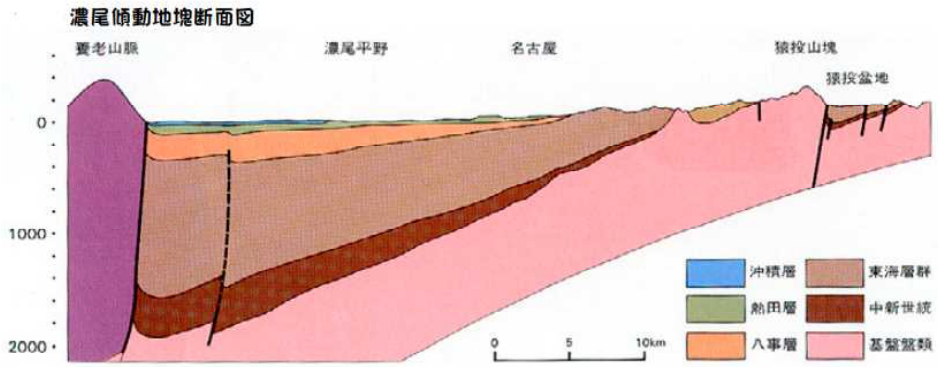
2　木曽三川の流域

東海湖に流れ込んでいた川は、東側の土地が上がることにより、その流れが西へ西へと変わっていった。東海湖がなくなり、現在では、木曽三川（木曽川水系）となり、三つの川がそろって伊勢湾に注いでいる。木曽三川（木曽川水系）の流域が東に大きく広がっているのは、東海湖の消滅と大いに関わりがある。



3　鈴鹿山脈、養老山地、濃尾平野の誕生

東海湖が消滅していく時期と、鈴鹿山脈、養老山地が隆起していく時期が同じである。養老山地は濃尾平野との境目で東側からの力により断層ができ、土地全体が持ち上げられ、西に傾くことによってできた。これを傾動地塊という。養老山地は傾動地塊である。同時期に養老山地の東側から猿投山までを一つのブロックとして傾動地塊ができた。猿投山が隆起し、その西側が沈降する形で傾いた。濃尾平野の誕生である。この傾動運動は100万年ほど前から本格化し，現在も進行中であり，その平均の速さは年間0.5～0.6mmと考えられている。その結果，平野へ流れ込む河川は西方へ偏る傾向になり，運び込まれる土砂も平野の西部に厚く堆積していくことになる。それは同時に、木曽三川の流域は東に広がり、三川がそろって伊勢湾に注いでいることにつながっている。



（4） 東海湖の変遷と鈴鹿山脈・養老山地・濃尾平野の誕生

（　　）年（　　）組（　　）席・名前（　　）

課題　資料「東海湖の変遷と鈴鹿山脈・養老山地・濃尾平野の誕生」を読んで、次の問いに答えなさい。

(1)　東海湖の誕生について考えよう

湖が誕生するには、まわりの土地より低くなる必要がある。どんな力が働いて土地が低くなったのだろうか？暑い紙束を地層として考えよう。

(2)　この文章の中で、大地が東側から力を受けた結果、起きた事象は何でしょうか。

(3)　大地が東側から受けた力は、地球表面をおおうプレートの動きと関連していると考えられます。そのプレートの名前と、そのプレートのどんな動きと関連しているでしょうか。

教育実践を積む
http://zissen-kiroku.sakura.ne.jp/kyouiku/